『飼葉桶に寝かせた』（ルカの福音書 2 章 1-7 節）2020.12.13.

＜はじめに＞「キリストは馬小屋で生まれたって言うけど、それは後代が救い主への劇的な脚色を施したかったからだと思う」という言葉を聞いたことがあります。どう思いますか。救い主の誕生について、聖書は何と言っているでしょう。

Ⅰ　ナザレからベツレヘムへ

①聖書のフォーカス

2 章は全世界から始まります。当時の世界帝国・ローマの皇帝アウグストゥス(BC27-AD14 在位)が徴税のために住民登録の勅令を出します。しかし聖書は為政者ではなく、ガリラヤ出身の若い夫婦に目を向け、ベツレヘムにあった飼葉桶に焦点を合わせます。

②振り回された人たち

ヨセフと許嫁の妻マリアは共にガリラヤのナザレに住んでいました。マリアは身重で出産準備に入っていたはずです。そこに住民登録の勅令が出され、彼らも出身地ユダヤのベツレヘムへの旅を強いられます。為政者の権勢に振り回された市井の一組でした。

③隠れたプロデューサー

彼らはユダヤのベツレヘムに行かなければなりませんでした。それは救い主(キリスト)はユダヤのベツレヘムで生まれると預言が実現するためです(マタイ 2:4-6、ミカ 5:2)。そのために神は皇帝さえも動かします。歴史(History)は神の物語（His Story）とも言われます。

Ⅱ　飼葉桶に寝かせた

①Go To ふるさと

ヨセフとマリアが目指したのはダビデの町ベツレヘムでした。ヨセフがダビデの家系だったからです。町に彼らが着いても、宿屋には居場所がありませんでした(7)。住民登録で各地から帰省した人に満ち、宿屋にとっては千載一遇のチャンスだったでしょう。

②止む無く追いやられて

やがて身重の妻マリアが月が満ち、出産場所としてヨセフが見出したのは家畜小屋の片隅でした。そこでマリアは男の子を産み、その子を飼葉桶に寝かせました。積極的に望み、選んだのではありません。その時、両親はどんな思いだったでしょう。

③そこに働かれる神

人間的には最低最悪ですが、この状況下での可能な最善が飼葉桶でした。しかし、これがその夜、御使いが羊飼いに示した救い主のしるしとなりました(12,16)。このことから、神はどんな方だと言えるでしょうか。また人とはどういう者でしょうか。

Ⅲ　御子を迎える

①今も働かれる神

神の御子・救い主が、力と思惑に翻弄される人々の只中に生まれ、更にその中で弾き出される小さな存在として来られました。しかし、この物語を主導される神を、注意深く見るならば見出すことができます。私たちの生活の中にも同じ神が働いておられます。

②布にくるんで

両親は生まれたばかりの嬰児を為し得る限り愛といつくしみをもって包みます。飼葉桶や藁に直接触れないようにとです。値段や品質では測れないものがあります。私たちが救い主をどんな思いで迎え、それを何で表せるでしょうか。

③へりくだった者に恵みを

先週も「神は高ぶる者に敵対し、へりくだった者には恵みを与える」(ヤコブ 4:6)を引用しました。クリスマスは御子・救い主がへりくだった者に包まれる時です。それはどのように表されることを神は願っているでしょうか。

＜おわりに＞ 布にくるまれ飼葉桶に眠るみどりごこそ、クリスマスの絵です。この情景は神が描かれたもので、ここに神のメッセージが込められています。そのメッセージを一人ひとりが汲み出されますように。(H.M.)